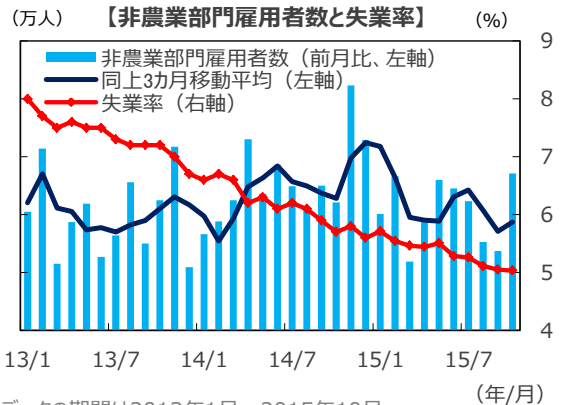


今日のトピック 米国の雇用統計 (2015年10月) 堅調な雇用増で12月利上げの可能性高まる

ポイント1 雇用者数は27.1万人増 引き続きサービス業が増加をけん引

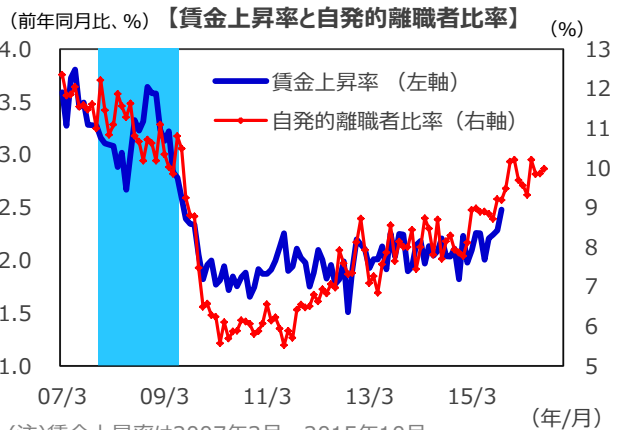
- 10月の非農業部門雇用者数は前月比27.1万人の増加となり、市場予想（ブルームバーグ集計）の同18.5万人増を大幅に上回りました。
- 過去2カ月分が合計で1.2万人ほど上方修正されたこともあり、雇用の増加ペースは3カ月移動平均で18.7万人と、前月の17.1万人から加速しました。
- 10月は、民間部門が同26.8万人の増加となりました。なかでもビジネスサービスや教育・医療といったサービス業の雇用増が目立ちました。



(注)データの期間は2013年1月～2015年10月。
(出所)米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 失業率は5.0% 賃金上昇率は前年比2.5%増

- 一方、失業率は5.0%でした。前月比0.1%ポイントの低下です。労働供給（労働力人口）は増えたものの、労働需要（就業者数）がそれを上回るペースで増加したためであり、「質の良い低下」と評価できます。
- 時間当たり賃金は前月比0.4%増、前年同月比では2.5%の増加でした。2009年7月の前年比2.6%増以来の高い伸びです。労働需給改善の影響が、ようやく賃金に波及してきたと考えられます。



(注)賃金上昇率は2007年3月～2015年10月。
自発的離職者比率は2006年5月～2015年10月。
自発的離職者比率は10カ月先行。網掛けは景気後退期。
(出所)米国労働省のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 年内利上げの可能性が大幅に上昇

- 失業率から判断すると、米経済は完全雇用の水準に到達し、スラック（需給の緩み）はほぼ解消されたと見られます。
- 12月15日～16日に開催される次回の連邦公開市場委員会（FOMC）で、利上げが決定される可能性は一段と高まったと考えられます。

ここもチェック! 2015年11月 4日 米国のISM製造業景況感指数 (2015年10月)
2015年10月30日 米国のGDP成長率 (2015年7-9月期速報値)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。